



七つ星
校訓「志高く」



特別の教科 道徳

校長 前田 倍成

「道徳」というと、どんな印象をおもちでしょうか。説教の時間？、ガマンの時間？
絵本や児童書の挿絵で活躍するヨシタケシンスケさんは、小学校の頃を次のように回想
しています。

「…道徳の場合は、『傷つけちゃいけません』『盗んじゃいけません』といった『知っ
ていること』を改めてみんなで確かめ合うんですね。『そんなことわかってるよ』というわけ
にもいかないし、どうすればいいんだろうって思っていた記憶があります」(光村図書HP)

道徳の資料を読んで心情や人となりを読み取るだけ、教師の説諭や価値付けをただただ
聞いているだけ、これがこれまでの道徳だとすれば、今は少々違ってきています。

『小学校学習指導要領 総則』には、次のようにあります。

「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合
う『考える道徳』、『議論する道徳』へ…」つまり、物事を多面的・多角的に捉え、考える
ことが、特別の教科となった道徳で重視されているわけです。

<いじめはなんでなくなるのか？ どうすればなくしたり減らしたりできるのか？>

今回、子どもたちが行き着いたのは『友達』の存在でした。

資料をもとに、いじめられていたT子さんが欲しかった『本当の友達』について話し合
いました。正直、そんなに深く議論できたわけではありませんでしたが、子どもからは…

- ありのままを受け入れてくれる
- 認めてくれる
- いじめる側には同調しない
- 苦しみも分かち合える
- 行動を起こしてくれる
- いじめを止めてくれる

などの意見が出ました。

「じゃあ、あなたにはそんな『友達』がいる？」と問うと、多くの人が自信をもって手を挙げました。よく考えた末「自信がない」という人たちも勇気をもって意思表示してくれました。

しかし「では、あなた自身は、そんな『友達』になれている？」と問うと、今度は、多くの人が手を挙げることはできませんでした。きっと「自信がなかった」のだろうと思います（「別に友達でなくてもいいんじゃないの」という意見も期待しましたが…）。

話し合いから、いじめをなくしたり減らしたりしていくために、友達の存在が大きな意味をもつのなら、あなた自身、そして互いがそんな存在の『友達』であってほしいと話したところで時間切れとなりました。

上記は、わたしが「ローテーション道徳」で6年生に行った授業の概容です。

『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』には、次のようにあります。

「校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導を行うことなど、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫することなどを、学校の方針の下に道徳教育推進教師が中心となり進めることが大切である。」

道徳教育は、道徳の時間を要とし、学校教育全体の中で子どもたちに道徳性を育ていくことが大切だということです。

今年度も志賀小は「ローテーション道徳」に取り組んでいるところです。次は1年生で授業をします。

—— 自分の命を守る行動を ——



「防犯教室（2～4年生）」の様子



「交通安全教室（1年生）」の様子

6月16日（水）には「防犯教室」を、そして29日（火）には「交通安全教室」を開催しました。いずれも羽咋警察署から講師をお招きしてお話を伺うことができました。昨今では不審者の情報も少なくありませんし、28日には小学生の下校の列に飲酒のトラックが突っ込むという大変痛ましい事故の報道があったばかりでした。

登下校時はもちろんですが、これからの夏、屋外で遊ぶことも多くなることを考えると、そうした報道も他人事ではありません。子どもたちが学んだことを生かし「自分の命を守る行動」をとれるように、ご家庭でも改めてお話ししていただけるようお願いいたします。

保護者のみなさまへ

6月22・24日の授業参観、全体の参加率は約83%でした。ご多忙の折、たくさんの方々にお運びいただきましたこと心より感謝いたします。当日の様子などは、学校HP「今日の1枚」に掲載してございますのでご覧になってください。